

高病原性鳥インフルエンザの発生予防対策を徹底

当センターは、鶏 1,200 羽を飼養しており、高病原性鳥インフルエンザウイルスの侵入防止のため、平素から車両消毒や鶏舎周辺への石灰散布、野生小動物の侵入防止を徹底しています。

特に、ネズミなどの野生小動物の鶏舎への侵入防止については、木の枝が鶏舎にかからないようにするとともに、センサーカメラで鶏舎を監視し、侵入経路となり得るバークリーナ（鶏舎から堆肥舎へ糞を搬出する装置）終末の開口部に、独自に考案した蓋を設置するなどの対策を講じています。

また、対策が確実に行われているかを定期的に点検しており、金網の破損など不備があれば直ちに改善するなど本病の対策に万全を期しています。



鶏舎にかかる木の枝を剪定



センサーカメラでネズミの侵入を監視



構造が複雑で密閉が困難なバークリーナ終末部には鉄板とチェーンを組み合わせた蓋を考案し設置



防疫チームによる巡回点検